

アカゲラ通信



レストハウス営業中です

旭山記念公園レストハウスは、毎日 10 時から 17 時オープンです。
森のレストラン「森のアリス」、今月は「焼きそばパン」を紹介します。
ノンオイルで作ったヘルシーなソース味の焼きそばを使っています。350 円です。
その他、いももち、コーヒー、ソフトクリームなどもご用意しております。
レストハウスは売店をご利用されなくても休憩できます、ぜひお越しください。



旭山にポプラの木があるわけ・・・かつては牧場だった

旭山記念公園の「巨木の谷」から第 1 駐車場にかけての辺りにはポプラの大木が散在しています。

しかし、冷静に考えてみると、こんな山の中にポプラがあるのはなぜでしょうか？

ポプラは外来種であり、本来は平原や河川敷などに生える樹木なのですが…

●旭山はかつて牧場だった

旭山記念公園の敷地は、明治から昭和初期まで「吉野牧場」という牧場でした。

牧場とポプラは北海道らしい風景といえますが、明治開拓期には、生育の早いポプラが海外から持ち込まれ、牧場の防風林に利用していたことから、旭山にもポプラが植えられたものと考えられます。

ポプラの木と、山の中の開けた場所である巨木の谷は、牧場だった名残りです。



●さくらんぼや栗の木も

巨木の谷と遊具広場には、食べられるさくらんぼがなる桜が 1 本ずつあります。左写真は巨木の谷のさくらんぼの花です。

また、植えられたと思われるクリの大木もありますが、これらは、牧場時代に人が食べられる実がなる樹木を植えたものと考えられます。

そのさくらんぼ、虫に食われているものが多いので、食べる際には注意が必要です。



●牧場から公園になるまで

戦前に牧場は解体され、北海道拓殖銀行(たくぎん)が土地を取得しましたが、戦後札幌市へ無償譲渡。後にスキー場として利用され、「スキー山」と呼ばれていました。

1960 年代、ハゲ山だったこの地を整備し、市民が記念植樹(1 本 1 万円で購入)を行い、1970(昭和 45)年、札幌市開基 100 年を記念して旭山記念公園として開設されました。

●ポプラが1本また1本と倒れてゆく…

ポプラは背が高くて上の方に枝葉が多いため、大風を受けて倒れやすい木です。クイーンの名曲ではないですが、旭山では、台風が来る度に 1 本また 1 本と倒れてゆくという感じがします。右の写真は昨年 9 月の台風で倒れて園路をふさいだポプラの大木で、処理した丸太が今でもこの写真の辺りに積まれています。



ポプラは寿命が 100 年程度と樹木としては短いですが、旭山のポプラは古いものでもう 100 歳を超えていると思われ、余計に強い風で倒れやすくなっているのでしょうか。

●ポプラは鳥がよくとまる

背が高いポプラには鳥がよくとまります。右は 1 月にヒレンジャクがとまっている写真です。ただ、あくまでも周りより背が高くて視界がよいため、野鳥が特にポプラが好きなわけではないと思われます。

●ポプラの綿毛が舞う季節

ポプラといえば、6 月から 7 月に種子がついた綿毛が舞う光景は、初夏の北海道の風物詩として知られています。

この綿毛、見た目はきれいですが、鼻や喉に吸い込まないようご注意ください。

◇「アカゲラ通信」では、今後も旭山記念公園に残る「人の行いの痕跡」を紹介してゆきます。



旭山野鳥メモ ④オオムシクイ

④オオムシクイ Short-tailed Bush Warbler *Urosphena squameiceps* スズメ目ムシクイ科

スズメより小さい。5月下旬、夏鳥として最後に北海道にやって来る鳥。

知床などで少数繁殖、多くはサハリンなどへ移動途中に10日程滞在。

「オオムシクイ」という名の鳥は2011年まではいなかった。

北海道に来るのは「メボソムシクイ」の1亜種とされていたが、DNAなど最新研究成果が反映され、独立した種となった。

だから、古い図鑑には「オオムシクイ」は載っていないのでご注意あれ。

オオムシクイは割と身近な鳥で、6月上旬には「チャキ、ジジロジジロ」という囁りをよく聞く。大木があれば街中の公園にもやって来る。

しかし、よく葉が茂った木の中にいることが多く、姿を見るのは意外と難しい(上の写真は針葉樹にいる)。

それもそのはず、オオムシクイはたいていの広葉樹の葉より小さく、葉の裏を動かれるとまるで見えない。「ジジロジジロ」という囁りも音が低くてあまりきれいな響きではなく、姿も地味でともすれば目立たない鳥。

5月下旬にオオムシクイが来ると、寂しくなる。もうその年新たにやって来る夏鳥はない。

だから、早くも、夏鳥が毎日のようにやって来る来年の春に思いをはせる。まだ夏すら迎えていないのに。そうか、最後の夏鳥、そこにオオムシクイの確かな存在感があるのか。



6月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただくか、森の家までおたずねください。

★アオバト(右写真)＝森の家の周りで「アーオー」と声が聞こえ時々姿も見られます。



★キビタキ＝森の家の周り他園内の森で囁りが聞かれます。

★クマゲラ(左写真)＝5月後半から観察機会が増えました。

★シマエナガ＝そろそろ巣立ち幼鳥が見られる頃です。

★クロツグミ＝森の家近くで比較的よく見られます。

★オオルリ＝藻岩山登山道入口付近沢の方から囁りが比較的よく聞かれます。



旭山ミニ生き物図鑑 2019年6月

5月から6月の生き物たち



ベニバナイチヤクソウの小群落が旭山都市環境林にあり、今年も花が咲き始めています。散策路から外れた分かりにくい場所にあるため、詳くは森の家スタッフにおたずねください。



コケイラン



クゲヌマラン



シラネアオイ



フタリシヅカ



ミズキの花とアオハナムグリ



エゾアカガエル幼生



芋虫をくわえるシマエナガ



エゾリス

編集後記

噴水広場近くの松にハシボソガラスが巣を作り子育てをしています。

カラスは子育ての時期に人を襲うといいますが、それはハシブトガラスの方。

ハシボソガラスは襲いません。細めの嘴と平らなおでこが特徴で、「ガアガア」と濁った声で鳴くハシボソガラス、雛の巣立ちを見守ってゆきたいと思います。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第69号 2019(令和元)年6月7日発行

発行：(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所：〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先 電話 011-200-0311 (土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asaniiyama/>